

# も く じ

## ちょうみんけんしょう 真鶴町民憲章

1	たんけん、 <sup>はっけん</sup> 発見、わたしたちのまち	3
	(1) 真鶴町って、どんなまち	3
	(2) 真鶴町のまわりは、どんなまち	15
	(3) 真鶴町に住んでいる人はどのくらい	16
2	見つけたよ、まちの人たちの <sup>しごと</sup> 仕事	17
	(1) 見つけよう、真鶴町のお店	18
	(2) 真鶴町の <sup>とくしょく</sup> 特色を生かした仕事	20
	① 魚をとる仕事	20
	② 石を切り出し <sup>かこう</sup> 加工する仕事	24
	③ みかんを <sup>そだ</sup> 育てる仕事	27
3	安全、安心、みんなの暮らし	28
	(1) 火事からまちを守るには	28
	(2) 安全なまちをめざして	31
4	<sup>むかし</sup> 昔をたずねて	36
	(1) 昔のまちの様子	36
	(2) 昔の暮らしと <sup>どうぐ</sup> 道具	37

5	さわやか、すこやか、みんなのくらし	4 1
	(1) ご み は ど こ へ	4 1
	(2) 水 は ど こ か ら	4 5
	(3) 水 は ど こ へ	4 8
6	自然災害にそなえて	4 9
	(1) 地震 <small>じしん</small> や台風 <small>たいふう</small> にそなえて	4 9
	(2) 災害 <small>さいがい</small> から人々を守るために	5 1
7	ふるさとをゆたかに	5 2
	(1) まちに残 <small>のこ</small> る年中行事 <small>ねんちゅうぎょうじ</small>	5 2
	(2) 地域の発展に尽くした人々	5 5
	① 「漁業 <small>ぎょぎょう</small> のまち」ができるまで	5 6
	② 「石材業 <small>せきざいぎょう</small> のまち」ができるまで	5 8
8	真鶴町のまちづくり	6 0
9	真鶴町のうつりかわり	6 6
	(1) 昔を伝 <small>つた</small> えるもの	6 6
	(2) 真鶴町のうつりかわり	6 9

白地図

あとがき

# 1 たんけん、<sup>はっけん</sup>発見、

## わたしたちのまち

生活科でも、まちたんけんに行きましたね。

もっと調<sup>しら</sup>べてみたいと思ったことはありませんか。

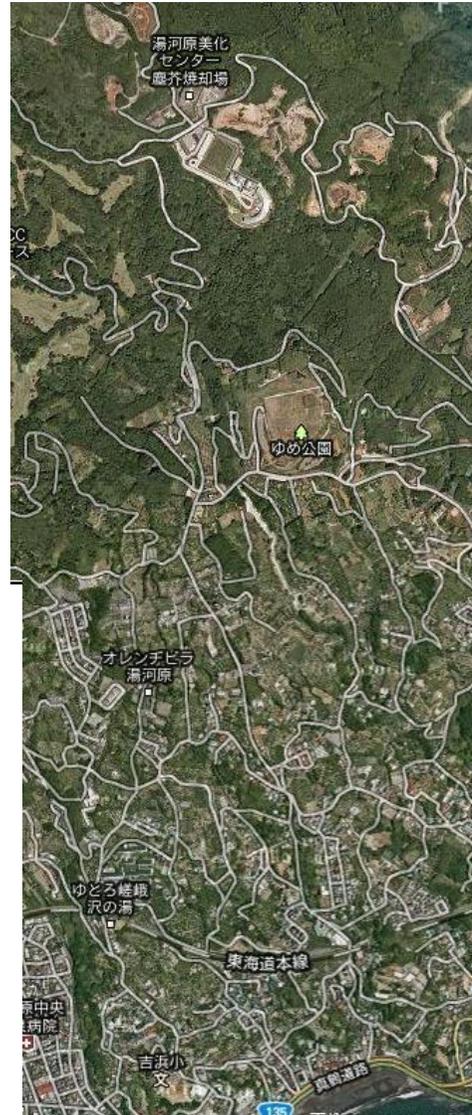
さあ、社会科のまちたんけん<sup>しゅっぱつ</sup>に出発<sup>しゅっぱつ</sup>しましょう。

### (1) 真鶴町って、どんなまち

●<sup>うちゅう</sup>宇宙から見た真鶴町です。何が見えるかな。



真鶴<sup>じち</sup>町自治会マップ



- 岩中央自治会
- 土肥道自治会
- 城口自治会
- 城北自治会
- 東自治会
- 西自治会
- みさき自治会
- 丸山自治会
- 山炒り自治会



最新版に更新

真鶴町のすきな所や、気になる所を、  
しょうかいしましょう。

- ・まなづる小学校はどこにあるかな。
- ・自分の家はどこだろう。
- ・駅<sup>えき</sup>の周りには何があるかな。
- ・たてものがたくさんたっている所<sup>ところ</sup>はどこかな。
- ・緑<sup>みどり</sup>が多いところは、どうなっているのだろう。

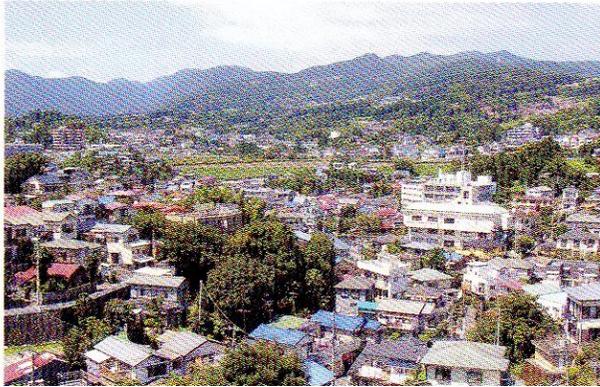
200 m  
1000 フィート

©2011 Google - 画像 ©2011 DigitalGlobe, Digital Earth Technology, Cnes/Spot Image, GeoEye, 地図データ ©2011 ZENRIN

●学校の屋<sup>おくじょう</sup>上へ行ってまちの様<sup>ようす</sup>子を見てみよう。

たてものや土地はどんな様子かな。

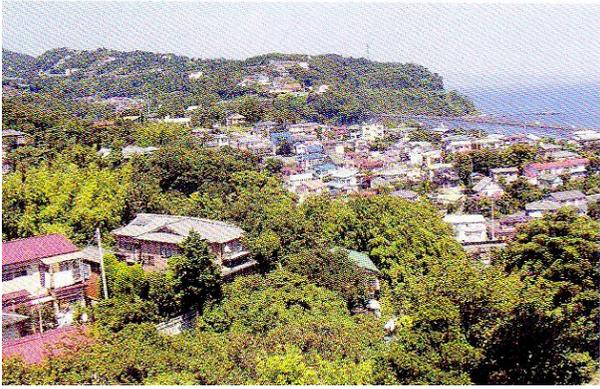
(西がわ)



(南がわ)



(北がわ)

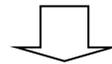


北がわの様子を書いてみよう



A large empty rectangular box with a folded bottom-right corner, intended for writing a description of the northern side.

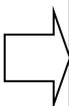
(東がわ)



東がわの様子を書いてみよう

A large empty rectangular box with a folded bottom-right corner, intended for writing a description of the eastern side.

南がわの様子を書いてみよう



●どこにどんなものがあるのかな。

～学校のまわり～

J R 真鶴駅前こうばんの交番 ●

J R 真鶴駅 ●



あら いじょう し こうえん  
荒井城址公園 ●



● 情報センター真鶴



● 真鶴図書館



コミュニティ真鶴 ●

7……たんけん、発見、わたしたちのまち

やくば  
●真鶴町役場



ちょうみん  
●真鶴町民センター



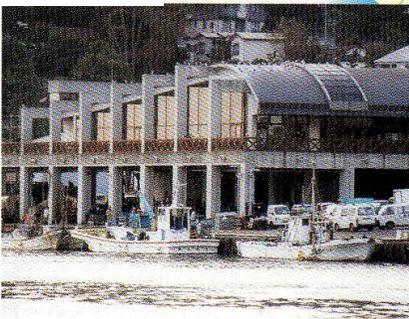
こくみんけんこうほけんしんりょうじょ  
●真鶴町国民健康保険診療所



ゆがわらまちしょうぼうしよ ぶんしよ  
●湯河原町消防署真鶴分署



●魚市場



さかな ざ  
●魚座



こう  
●真鶴港



さとらみ  
●里海ベース



たんけん、発見、わたしたちのまち……8

じょうほくほうめん  
 ~岩・城北方面~

いしきりば

●石切場



たいいくかん  
 ●真鶴町立体育館



●真鶴町立真鶴中学校



りゅうもん じ ほうきょういんとう  
瀧門寺宝篋印塔



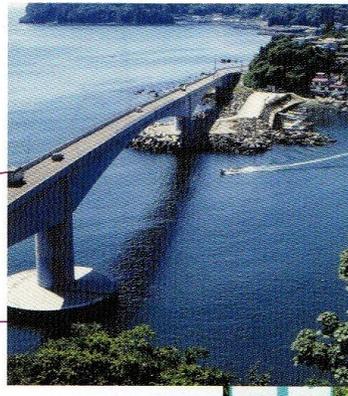
りゅうもん じ  
瀧門寺



いわ くれあい かん (旧岩小学校)  
岩ふれあい館 (旧岩小学校)



いわおほし  
岩大橋



いわがし べん  
岩海岸



にょらい じ  
如来寺あと



まがさか じんぎょう じょう (旧土屋邸)  
真鶴町民俗資料館 (旧土屋邸)



いわさぎ ころり  
岩漁港



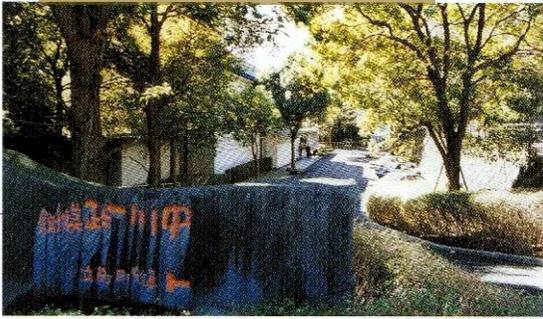
## ～みさき方面～

### ● 真鶴町立ひなづる幼稚園



### ● 真鶴町立中川一政美術館

なかがわかずまびじゅつかん



### ● お林展望公園

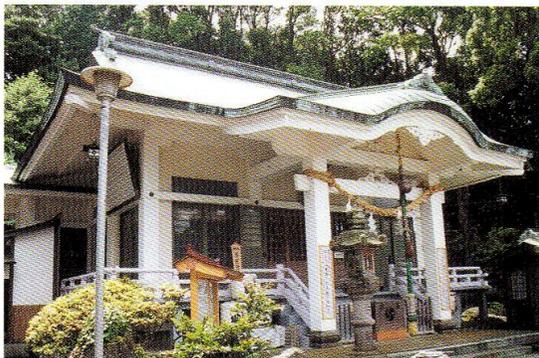
てんぼう



(お林展望公園から見える三ツ石) →



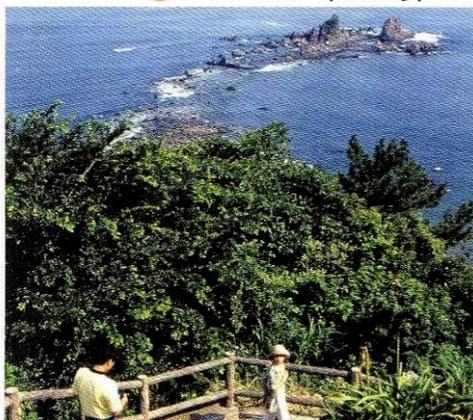
きぶねじんじゃ  
● 貴船神社



こと はま  
● 琴ヶ浜



みつ いし  
● 三ツ石 (笠島)



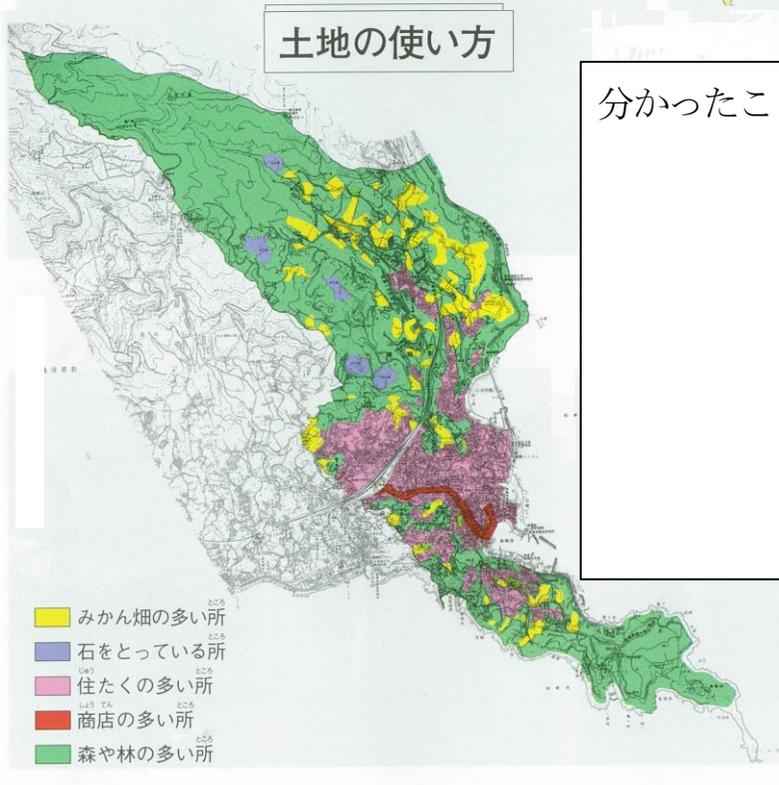
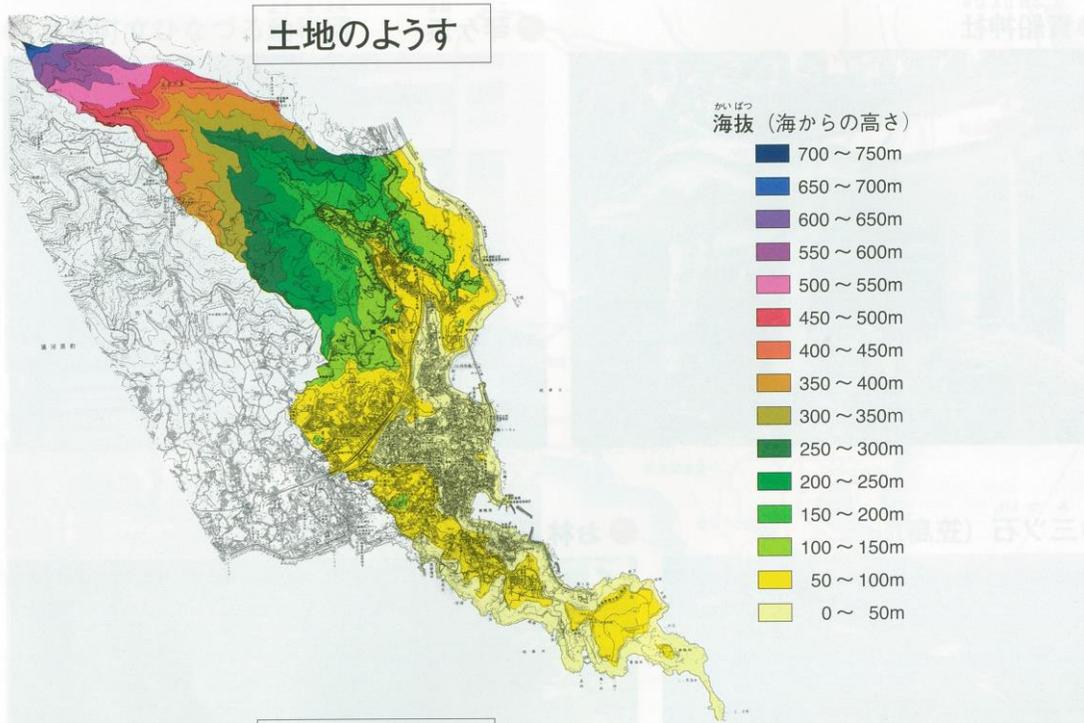
お林 (遊歩道)  
ゆうほどう



えんどう るいはくぶつかん  
● 真鶴町立遠藤貝類博物館



● 土地の様子と使われ方に関係があるのかな。



分かったことを書いてみよう



- 町役場
- 文学
- × 交番
- 〒 ゆうびん局
- ⊕ 病院
- 二 橋防署
- Y 消
- 卍 寺
- 卍 神社

- と 図書館
- めいしよきゆうせき
- 凸 しろあと
- 記念碑
- ⚓ 港
- ト ンネル
- 鉄道
- 道

地図記号はいろいろあります。

ほかにもどんな記号があるか、調べてみよう。

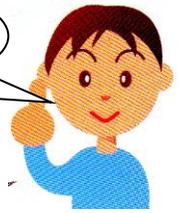
(2) 真鶴町のまわりは、どんなまち



とうきょうと  
東京都



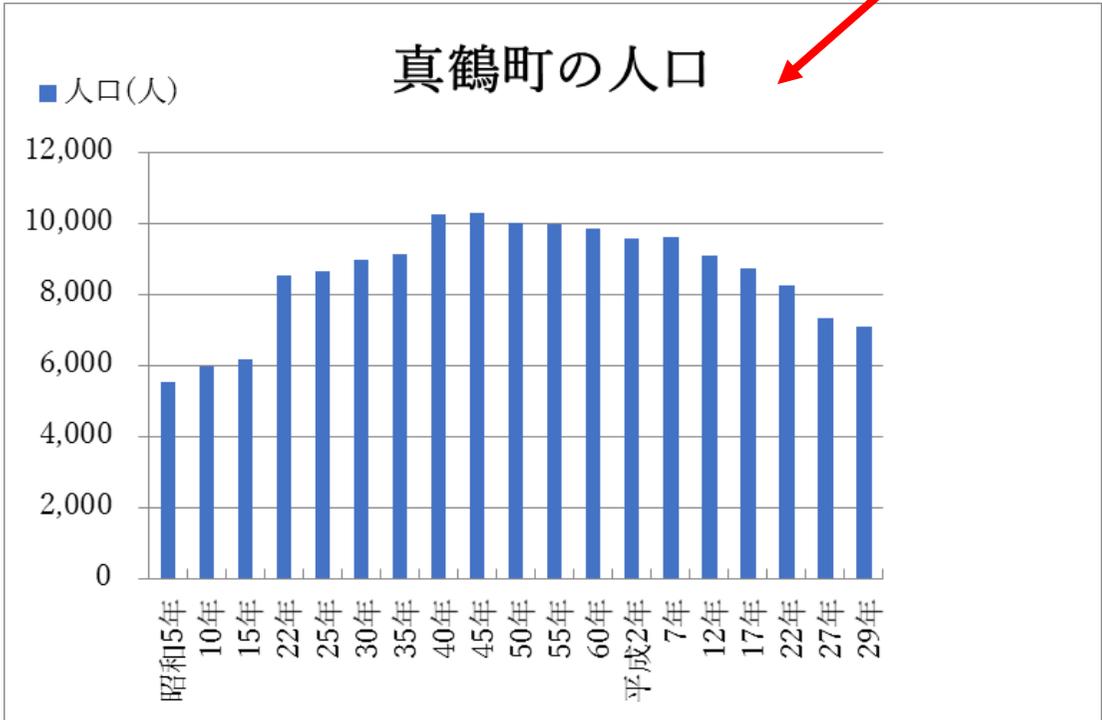
真鶴町は、<sup>かながわけん</sup>神奈川県<sup>の</sup>どのあたりにあるかな。  
ほかの市町村と大きさや形をくらべてみよう。



せいしやうちく  
「西湘地区」に変更

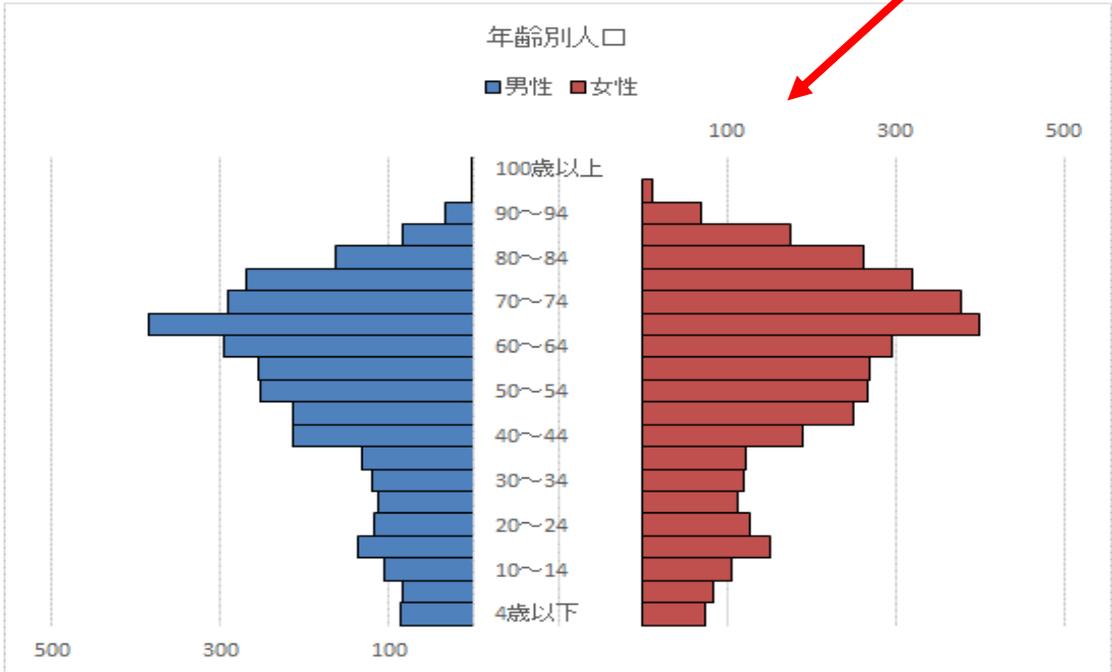
(3) 真鶴町に住んでいる人はどのくらい

最新データに変更



最新データに変更

年齢別人口



平成29年1月1日現在

## 2 見つけたよ、まちの人たちの仕事<sup>しごと</sup>

まちたんけんに行ったとき、まちではたらく人に会いましたね。もう一度、はた

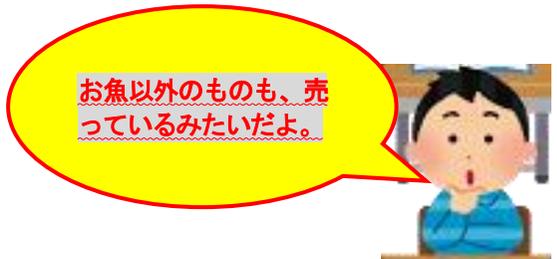
らく人をたずね、仕事の様子をよく見てみましょう。

●家<sup>りょう</sup>の人は、どんなお店を利用しているのかな。

ちょうない しょうてん  
〔町内の商店〕



お肉屋さんで、お弁当が売っているよ。



お魚以外のものも、売っているみたいだよ。

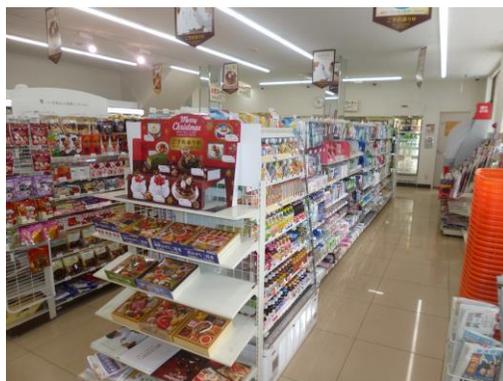
〔町内のスーパーマーケット〕



〔町内のドラッグストア〕



〔町内のコンビニエンスストア〕



お店ではたらく人の、くふうや努力は何でしょう。

おだわら  
〔小田原市内のショッピングモール〕



ゆがわら  
〔湯河原町内のショッピングモール〕



19……見つけたよ、まちの人たちの仕事

## (2) 真鶴町の特色を生かした仕事

### ① 魚をとる仕事

真鶴の海では、アジやサバ、カマスをはじめとする何十種類もの魚がとれます。



アジ



サバ



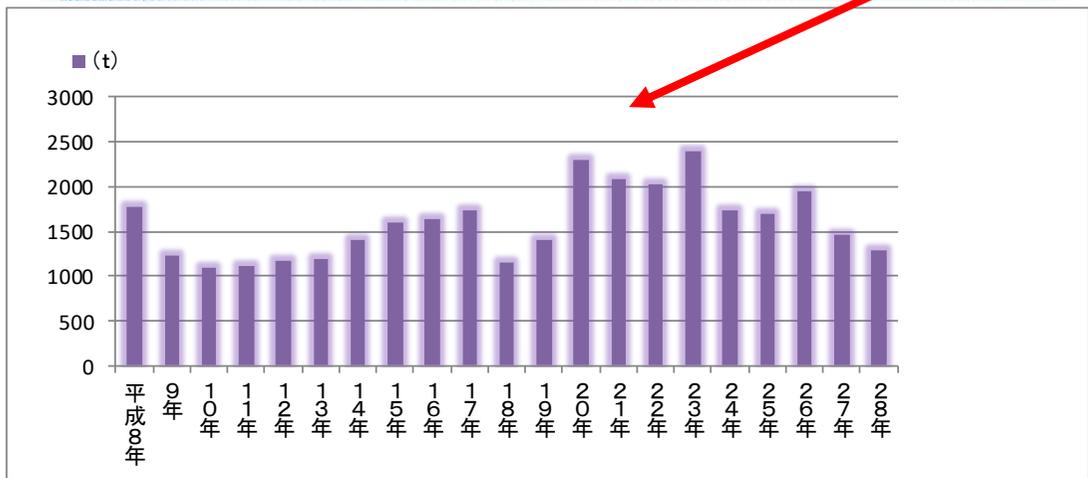
定置網漁業のようす

### ● 真鶴の海では、どのくらい魚がとれるのか

最新のデータに変更

#### 真鶴でとれた魚の量のうつきわり

(町産業観光課)



#### ～むかしへタイムスリップ～

昭和8年、真鶴でとれたおもな魚は、ぶり(1位)・まぐろ(2位)・あじ(3位)で、ほかにも、いわしやさんまがたくさん水あげされました。



市場をうめつづく「ぶり」(昭和32年)

● <sup>りょうし</sup>漁師さんはどんな<sup>しごと</sup>仕事をしているのかな。



<sup>ぎょせん</sup>漁船での<sup>りょう</sup>漁のようす



魚を分けているようす

<sup>てい</sup>ち <sup>あみ</sup>あみ <sup>しゅうり</sup>しゅうり  
定置網を修理して  
いるようす



● 魚はどこへ<sup>はこ</sup>運ばれるのかな。

魚を<sup>はこ</sup>運ぶトラック



にぎわう市場でのせり



りょうし  
● 漁師さんたちの思いはどんなことかな。



れいかいすいそうち  
【冷海水装置】  
かながわけん はじ  
真鶴は神奈川県で初めてのこの  
きかいを取り入れました。

ぎょ ほうりゅう  
【ヒラメのち魚の放流】  
ヒラメのほか、タイやアワビ  
の放流もしています。



平成13年7月に冷海水装置を買いました。このきかいのおかげで、とった魚を今までよりもずっと長い間、しんせんにたもっておけるようになりました。このきかいを取り入れてから「真鶴の魚は今までよりもしんせんでおいしくなった」とひょうばんなので、とてもうれしいです。

また、とってばかりいると魚がどんどんへってしまうので、ヒラメやタイなどのち魚の放流にも取り組んでいます。放流した魚が大きく育ち、真鶴の海、そして日本の海がゆたかになってくれることをねがっています。



ぎょぎょうきょうどうくみあい  
漁業協同組合の  
おじさんのお話

れいかいすいそうち  
冷海水装置とは、海水を摂氏0℃に冷やし、同時に海水を紫外線で殺菌することが  
できるきかいです。この装置で作った冷きやく海水を、定置網のしめ上げから、  
魚の選別・セリ売りまでずっと使うことによって、新せんさが長持ちします。

## うおつ ほあんりん 魚付き保安林

真鶴の海に魚がたくさん集まる理由の一つに、「自然豊かな森」があります。

森林がなぜ魚を集めるのか、科学的に解明されていませんが、

- ①森がつくる影が魚たちの絶好の隠れ家になる。
- ②木から落ちた虫にプランクトンが繁殖し、魚たちのえさになる。
- ③降った雨を森が吸収して海に流すため、海水温度の変化が少なく、魚たちの住みやすい環境をつくる。



などと考えられています。

この森林は昔から漁師の間で「魚を育てる森」として大切に守られ、1904（明治37）年に珍しい「魚付き保安林」に指定され、さらに1920（大正9）年に追加指定を受けました。

また、このクスノキやスダジイなどの照葉樹林は、2009（平成21）年、県の天然記念物に指定されました。

## 「海」と「観光の仕事」とのつながり



ひもの売る店



遊覧船



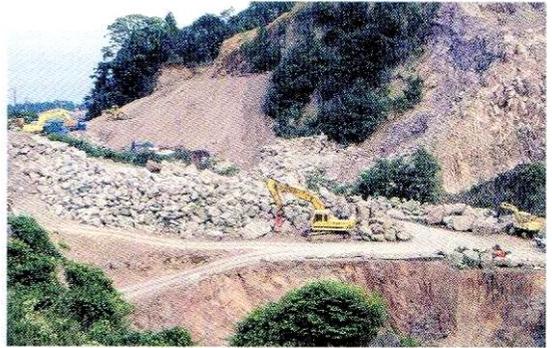
つり船

ほか 民宿 やいそ料理店などいろいろな仕事があります。

また、町外からの修学旅行生が漁業体験をするような場もつくっています。

## ② 石を切り出し加工する仕事

真鶴は、全国的に有名な小松石  
がとれる町として知られています。



石切り場での掘り出しの様子

### ●小松石はどんなものに使われるのかな。

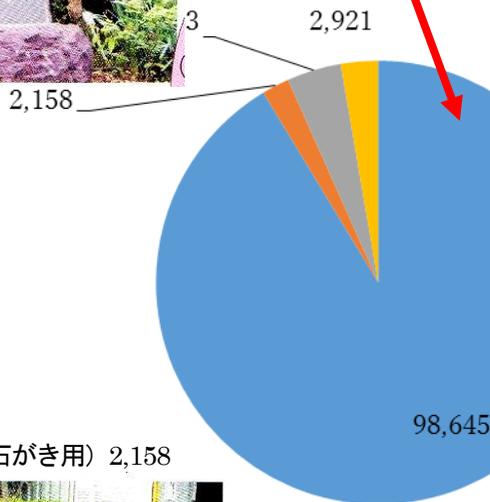
わりいし きねんひ にわいし  
割石（記念碑・庭石用） 4,263



かくいし はか  
角石（お墓用） 2,921



最新のデータに変更



けんち  
間知石（石がき用） 2,158



わりくりいし  
割栗石（うめたて用） 98,645

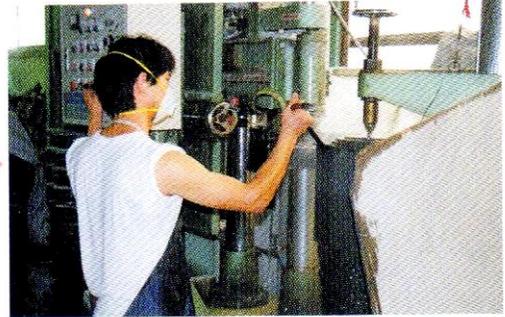


石材の生産量（単位 t）  
平成 28 年  
神奈川県石材協同組合調べ

こまついし かこう  
●小松石はどのように加工されるのかな。



きかいによるせっさく  
(石を切る)



人の手によるせっさく



ちょうこく (ほる)



けんま (みがく)



せきぶつ  
石仏・花びん など

かんせい  
**完成**



はか きねんひ かひ  
お墓・記念碑・歌碑 など

できよう  
作業によって  
みく 道具が  
服そうや道具が  
ちがうなあ。



- 石を切り出し加工<sup>かこう</sup>する仕事をしている人たちの思いはどんなことかな。

長年、石の仕事にたずさわっている方にインタビューしました。

Q：真鶴<sup>こまついし</sup>の小松石のすばらしさを教えてください。

A：加工して、ていねいにみがくと青くつやのあるたいへん美しい石になります。またとてもじょうぶであることも特<sup>とく</sup>ちょうのひとつです。とてもよい石なので1000年も前から使われています。あの小田原城<sup>じょう</sup>や江戸城<sup>えど</sup>の石がきも真鶴から運ばれた小松石なんですよ。

Q：仕事をしていて、どんな苦<sup>くろう</sup>勞がありますか。

A：山から石を切り出すときや加工するとき、注意<sup>ちゅうい</sup>しないと大けが<sup>びょうき</sup>をしたり病気になるったりするおそれがあります。そうならないように、山のけずり方を考えたり、加工のときの服<sup>くわ</sup>そうや道具<sup>どうぐ</sup>を工夫<sup>くわ</sup>したりしています。

Q：むかしと今では石の仕事はどうか変わりましたか。

A：きかい<sup>はつたつ</sup>が発達して石をほるのがとても楽<sup>らく</sup>になりました。だからといって速<sup>はや</sup>くほりすぎると、すぐになくなってしまいます。真鶴の小松石はたいへんよい石なので、できるだけゆっくりほって、大事<sup>だいじ</sup>に使いたいと思います。

- さがしてみよう、わたしたちの町にある小松石。

わたしたちの町でも、いろいろなところで小松石が使われています。



それぞれどこの写真<sup>しゃしん</sup>だかわかりましたか。

ほかにはどんなところで使<sup>しら</sup>われているか調べてみましょう。

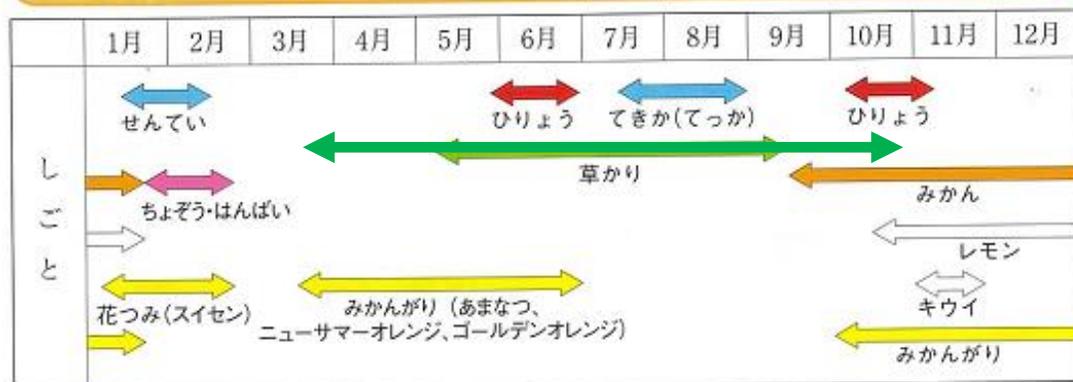
### ③みかんを育てる仕事

真鶴町には、日当たりや水はけのよい斜面を利用した、たくさんのみかん畑があります。



### ●みかんを作るには1年間にどんな仕事があるのかな。

#### 《みかん作りの仕事ごよみ》（岩地区のAさんの家）



(とはしゅうかくを表しています)

せんてい…木の形をととのえるために、いらないみかんの枝を切ること  
てきか…みかんの大きさや味をそろえるために、つきすぎた花やなりすぎた実をつみとること



草かり

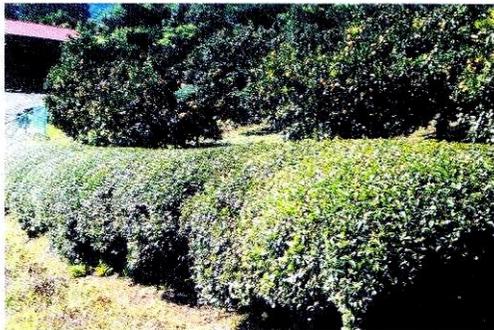


てきか(てっか)



しゅうかく

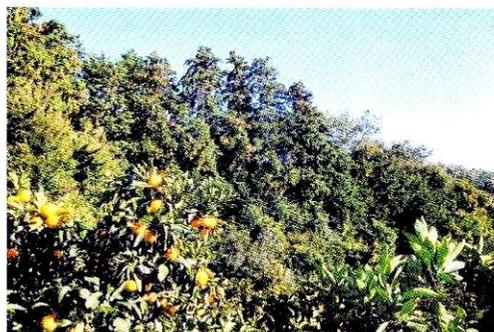
●みかんを作る人の思いはどんなことかな。



お茶のさいばい



きばこ  
木箱でのちょぞう



畑に植わっている大きな木

じょ草ざいや消毒薬などの農薬を使えば仕事は楽になりますが、できるかぎり使わないようにしています。そのため、草かりをしたり、みかんが病気にならないよう世話をしたりする仕事をしています。とてもたいへんですが、手をかけるうちに愛情がわいてくるんです。低農薬ですと、見かけは少しわるくなりますが、愛情かけて育てたみかんは、健康にたいへんよく、味も最高ですよ。



岩地区の農家の  
おじさんのお話

● どん<sup>そだ</sup>なものを育<sup>のうか</sup>てているのかな。(みかん農家によってちがいます。)



うんしゅう  
温州みかん

(真鶴でもっとも多く作られているみかん)



あまなつ  
甘夏



ゴールデンオレンジ



ダイダイ



ニューサマーオレンジ



きんかん  
金柑

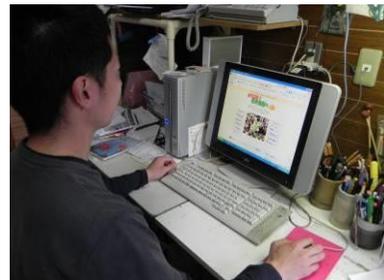


しし  
獅子ゆず

● 売<sup>う</sup>るためにどん<sup>そだ</sup>なことをしているのかな (みかん農家によってちがいます)



かんこうのうえん  
観光農園 (みかん狩り)



はんばい  
インターネット販売

### 3

## 安全、安心、みんなの暮らし

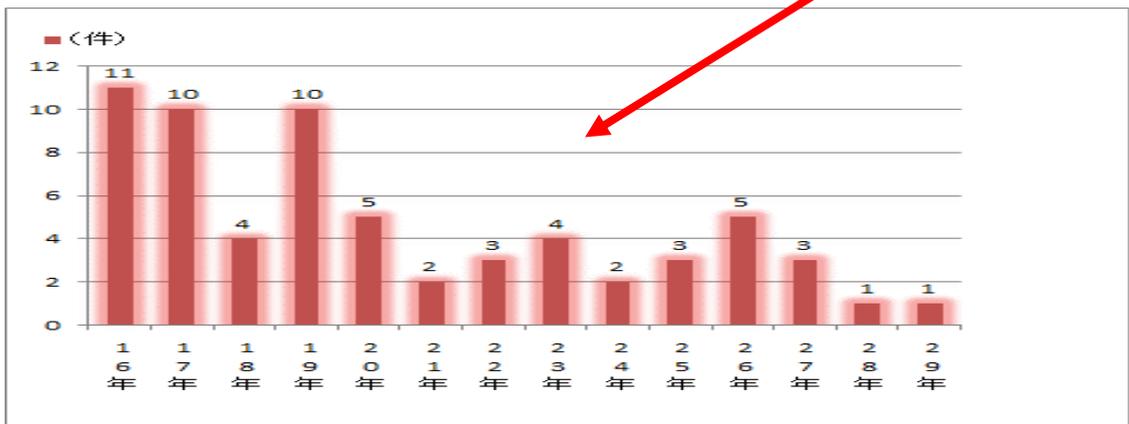
火事や事故から、わたしたちやわたしたちの住むまちを守ってくれているのは、どのような人たちなのでしょう。まちに住む人々の暮らしを守る人たちの仕事や、その仕組みを調べてみましょう。

### (1) 火事からまちを守るには

#### ● 真鶴町では、どのくらい火事が起きているのかな。

最新のデータに変更

真鶴町で起こった火事の件数



### 真鶴大火について

#### 近所の人のお話

夕方のことでした。火事に気がついたときは火がもえあがっていました。消防車がかかるのがおそく、自分の家にもうつりそうになりましたが、物置を焼いただけですみました。とちゅうで、消火用の水が出なくなり、消防車のホースをのばして港の海水をくみあげて使いました。道を通りぬける風がふいていたので、もえている火がガスバーナーの炎のようにいきおいよくふきだすようにもえていたのをよくおぼえています。

真鶴大火（昭和46年3月9日）

全焼 14けん

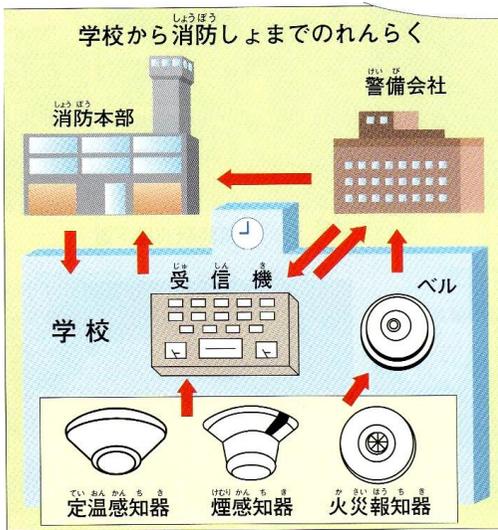
半焼 2けん



湯河原町消防署

(湯河原町消防本部)

●学校やまちの中には火災にそなえて、<sup>かさい</sup>どんな施設・<sup>しせつ せつび</sup>設備があるのかな。



町内の消防施設・設備 (平成30年)

防火水そう	85
消火栓	1105
本部・分団	5

(町環境防災課町総務課調べ)



防火水そう



消火栓



消火器

真鶴町消防団



第一分団



第二分団



第三分団

湯河原町消防署真鶴分署



(第四分団も兼ねる)

しょうぼうしょ  
● 消防署はどんなところかな。



しれいしつ  
司令室



きゅうじょ  
救助くんれん

しょうぼうし  
● 消防士さんは何をしているのかな

● 消防士さんは何をしているのかな。

3隊があり、朝8:30からよく朝8:30までの仕事を一日おきに交代しておこなう。

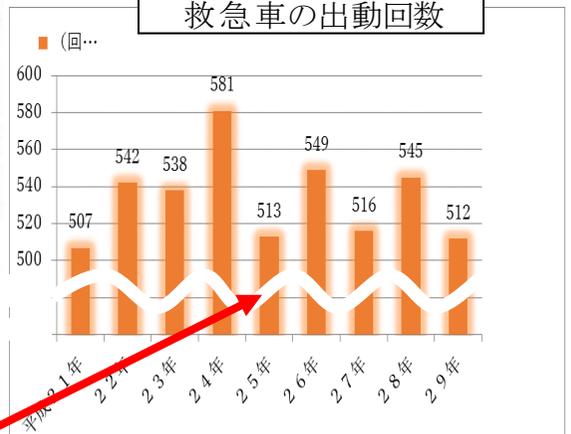
8:30	仕事をひきつぎ、交代する 消防自動車や、き材の点けんをする
9:00 ~ 9:10	消防無線のしけん通話をする
9:10 ~ 12:00	毎月の行事予定表にしたがって仕事を 13:00 ~ 17:00
	する (くんれん、じゅんかいちょうさ、車りょう・き材の手入れ、けんとう会など)
21:00	夜の出勤にそなえて、車りょうやき材を点けんする
22:00 ~ 7:00	かみん時間
7:00 ~ 8:30	分しよ内や外・車りょうのそうじ、 書るいの整理



しょうぼうし  
消防士さんがいつも  
心がけていることは何かな。



きゅうきゆうしや しゅつどうかいすう  
救急車の出動回数



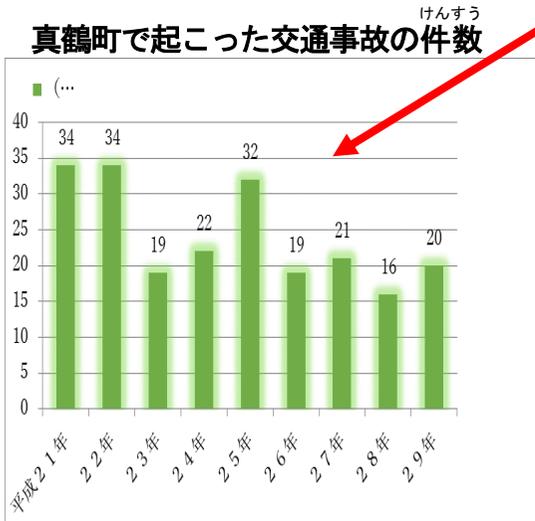
最新のデータに変更

安全、安心、みんなの暮らし……30

(3) (2) 安全なまちをめざして

最新のデータに変更

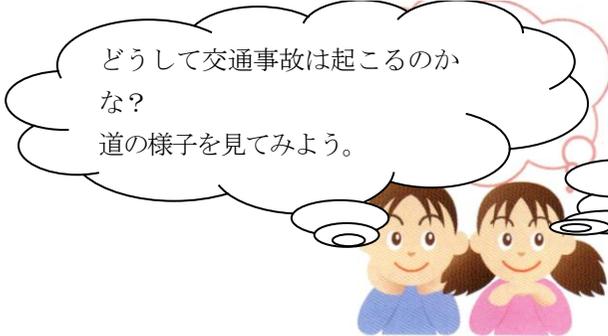
● 真鶴町では、どのくらい交通事故が起きているのかな。



(資料：小田原警察署)



(資料：小田原警察署)



平成21年には、死者1名をふくむ



● 交通事故をふせぐために、どんな設備があるのかな。



おうだんほう どう 横断歩道と横断旗



おし 信号機 (押ボタン式)



カーブミラー



ひょうしき 標識



ほどうきょう 歩道橋



ほどう ガードレールと歩道



グリーンベルト



真鶴駅前地下道

もしも事故が起きたらどうするのかな。

神奈川県警察本部(横浜)



小田原警察署

小田原警察署では、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町を受け持っています。



真鶴駅前交番



神奈川県警察本部の中にある通信指令室

現場近くの  
パトカー



110番

消防署



事故

110番通報をすると、すべての電話が警察本部の通信指令室につながり、その内容を警察署やパトカーに指令します。



まず、あわてずに110番をしてください。通信指令室では「ケガをしている人はいますか。」「住所、目標物はわかりますか。」「お名前、電話番号は…」などを聞きますので、落ちついて話してください。



けいさつかん  
●警察官は何をしているのかな。

●警察官の一日のおもな仕事

- ◎交通指導 (しどう)
- ◎事故や事件のとりあつかい (せいり)
- ◎書るいやしりょうの整理
- ◎広報活動 (こうほう)
- ◎武道のけいこ (じゅうどう、けんどう)
- ◎本署へ行く (小田原署との連絡) (ほんしょ、れんらく)
- ◎パトロール (ぼう)
- ・防はんパトロール
- ・事故防止のパトロール (ぼうし)
- ◎巡回連絡 など (じゅんかい)



交通指導

歩行者の安全を守る



交番での仕事

たずねてきた人への対応 (たいおう)



ぶどう  
武道のけいこ

じゅうどう、けんどう  
柔道や剣道の練習をする

警察官はどんな  
思いで仕事をし  
ているのかな。

ほかにもわたした  
ちの安全のために  
活動している人が  
いるのかな。



●わたしたちの安全を見守ってくれる人は、どんな人かな。



登校時の安全見守り



こども110番の家



毎月27日「<sup>かか</sup>交番の日」に係る<sup>ぼうはん</sup>防犯パトロール



<sup>ほどういん</sup>少年補導員による防犯パトロール

# 4

むかし

## 昔をたずねて

まちたんけんに行ったとき、いろいろな古いものに出会いましたね。もっとたくさんまちの昔をさがしてみましよう。

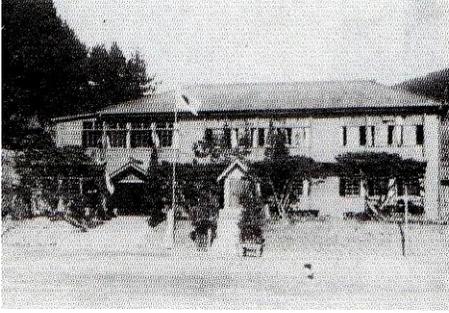
### (1) 昔のまちの様子



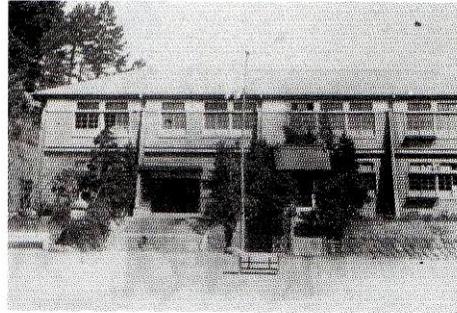
(2) 昔のくらしと道具どうぐ

● 昔の学校はどんな様子だろう。ようす

【旧岩小学校】

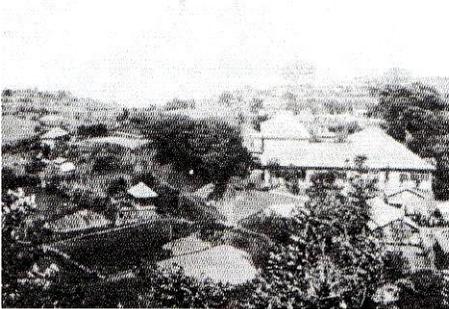


新しい校舎こうしゃ (大正13年1月27日)

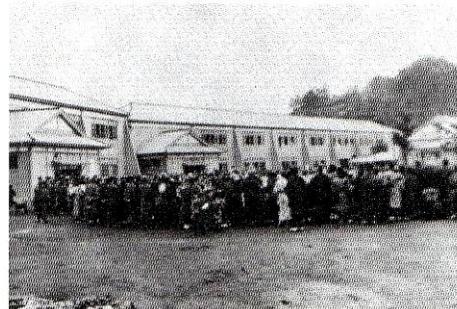


建てなおした校舎 (昭和12年10月1日)

【旧真鶴小学校】



関東大震災前だいしんさい



学校落成式らくせいしき (昭和2年10月17日)



1966 (昭和41) 年撮影きつえい



1993 (平成5) 年撮影

むかし ようす  
● 昔の子どもはどんな様子だろう。

【ふくそうや学校でのようす】  
明治40年ころ

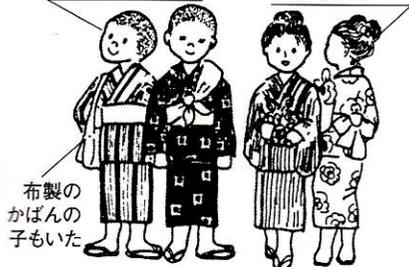
お弁当!!  
忘れない  
でネ!!  
学校の  
近くの  
家は  
家で昼食をとる事も許されていた



算術(そろばん)、歴史、  
理科、習字、  
裁縫(女子のみ)  
などの授業

丸坊主に  
かすりの着物など

髪は銀杏返しに  
結っていた



布製の  
かばんの  
子もいた

風呂敷は肩にしょった  
り、腰にまわしたりした

竹の皮で編んだぞうり  
(わらはぜいたく品だった)

【運動会のようす】  
大正6年ころ

女の子と  
手をつなぐ  
なんてヨ一  
恥ずかしくて  
たまねえな



洋服の子もいたが、ほとんどの子は着物だったので、  
着物姿で踊るフォークダンスであった

【ベーゴマなどで遊ぶ】  
昭和27年ころ

熱中した  
ベーゴマ遊び



【岩の子われら(旧岩小学校PTA)より】

【洋服の子が増えてくる】  
昭和3年ころ

洋服の子が増えてくる

女子の正装……主に行事の着用

男子の間に  
大流行!!



かすりの  
着物を  
短めに  
着て白の  
トレパンをはく子の  
姿がとても流行った



セーラー服に  
おさげ姿  
長い羽織  
袴

女子の水着  
登場!!  
「夏が一番好き  
だった」と言い  
切る岩の子



【遊び】  
昭和10年ころ

宿仲通りが、夕刻の遊び場  
村には、自動車もなく、道を車が  
走ることはなかった  
電信柱で「かいせん」  
「まりぶつけ」  
「なわとび」(漁協でなわをもらう)  
などをして遊んでいた



● <sup>むかし</sup> <sup>どうぐ</sup> <sup>つか</sup> 昔の道具…何に使うのかな、どのように使うのかな



真鶴町民俗資料館 (旧土屋亭)



● 生活に<sup>かん</sup>関するもの



ぎょぎょう  
● 漁業に関するもの



せきざいぎょう  
● 石材業に関するもの



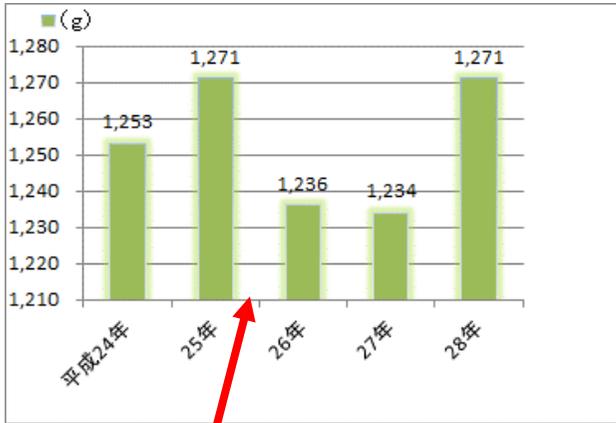
のうぎょう  
● 農業に関するもの (みかんの選別機) せんべつき





●分けられたごみはどこへ行くのかな。

真鶴町で1人が1日に出すごみの量  
(すべての種類を合わせたもの)



最新のデータと差替え



湯河原美化センター

かねんぶつ  
【可燃物】



ごみ集せき所



ごみを集めるパッカー車



最終処分場

最新の写真と差替え

しより  
み処理のうつりかわり

- 1961(昭和36)年 岩地区細山にごみしょうきゃく場を新しくつくった。(1日7.5t)
- 1970(昭和45)年 ごみしょうきゃくろをふやし、1日9t処理できるようになった。
- 1976(昭和51)年 ごみしょうきゃくろのこしょうで、湯河原町にごみのしょうきゃくをたのんだ。
- 1977(昭和52)年 真鶴町と湯河原町が、いっしょに利用できるごみしょうきゃく場が吉浜の屋ヶ山にできた。1日に40t処理できるようになった。
- 1985(昭和60)年 カンなどのもえないごみのえりわけをすることになった。
- 1990(平成2)年 粗大ごみ処理しせつが湯河原美化センターにできた。
- 1997(平成9)年 新しいごみしょうきゃく施設が湯河原美化センターにできた。(1日70t)
- 2019(令和元)年 新しい最終処分場が湯河原美化センターにできた。**

かねんぶついがい  
【可燃物以外のごみ】



粗大ごみ



カン類



くだかれた粗大ごみ



つぶされたカン・金ぞく類

美化センターには、粗大ごみやカン類のほかにもいろいろなもせない  
ごみが集められてきます。どのようなものがあり、どのように処理され  
るのかを調べてみましょう。

ごみをへらすために、  
わたしたちにできる  
ことは何だろう。



ごみを資源とし  
て生かせるよう  
に働いている人  
がいるんだね。



ビン類

ペットボトル類



せんべつ  
色別に選別

はずされていないキャップや  
リサイクルできないものを取り  
のぞく



黒系



むしょくとうめい  
無色透明系



緑系



茶系



このあと、  
どこへ行くの  
かな

## (2) 水はどこから

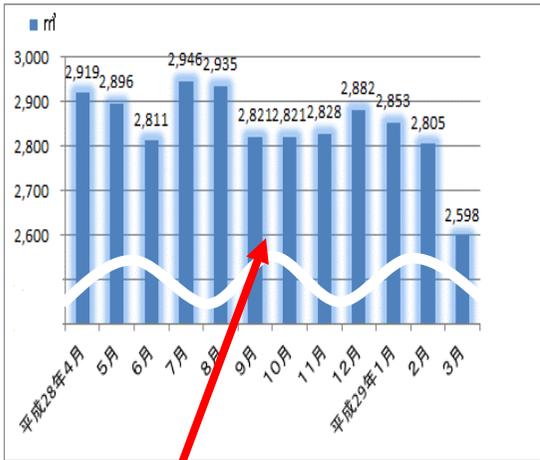
水はわたしたちの生活にとって欠かすことのできないものです。

ところが、大きな川がないので真鶴町は昔から水不足になやまされてきました。

### <真鶴町の水道のうつりかわり>

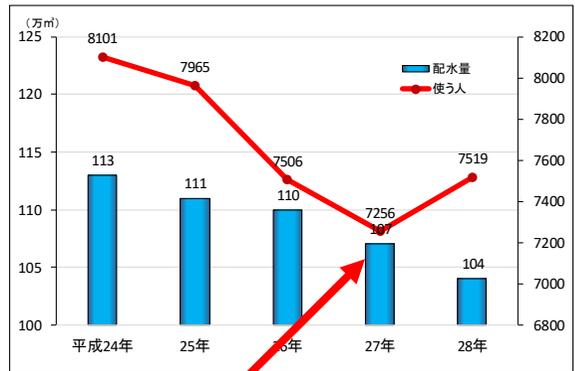
- 1928(昭和3)年 磯崎のわき水を水源として水道をつくった。
- 1952(昭和27)年 第1回目の水道を広げる工事が完成した。
- 1957(昭和32)年 第2回目の水道を広げる工事が完成した。  
水道を使う人がふえてくるにしたがって水源の水りょうが少なくなるとともにだんだん塩からくなってきた。
- 1961(昭和36)年 2月 小田原市江の浦の赤沢地区のわき水を水源とする工事が完成した。  
7月 東海道新幹線の南ごう山トンネル工事のため、赤沢の水が少なくなり、水源として使えなくなった。
- 1964(昭和39)年 小田原市江の浦の新幹線のトンネル工事から出たわき水を小田原市との約束で町に引くことになった。
- 1970(昭和45)年 第5回目の水道を広げる工事が完成した。  
湯河原町から水を買って引くようになった。(吉浜水道)
- 1971(昭和46)年 岩地区に井戸をほり、水源とした(棚子下)
- 1974(昭和49)年 岩地区に井戸をほり、水源とした(岩2号)
- 1975(昭和50)年 岩地区に井戸をほり、水源とした(岩1号)
- 1977(昭和52)年 第6回目の水道を広げる工事が完成した。  
夏の水の使用量がふえ、水不足になやまされるようになってきた。
- 1982(昭和57)年 湯河原町と飲料水をわけてもらおう約束をした。
- 1988(昭和63)年 岩地区、細山に町の水道がいくように工事した。これにより町内すべてに給水できるようになった。

月別 1日当たりの  
へいきんはいすいりょう  
平均配水量



(まなづるの統計)

水道を使う人と  
はいすいりょう  
配水量のうつきわり



最新のデータと差替え

最新のデータと差替え

えんそしょうどく しょくいん  
塩素消毒をする職員



すいげん じょうすい  
【水源と浄水方法】

すいげんけいとう 水源系統	名称	水源の種類 しゅるい	じょうすいしやりほう 浄水処理法	おも はいすい 主な配水先
えのうら 江之浦水源 水系	第1水源	わきみず 湧水	えんそしょうどく 塩素消毒のみ	橋の上地区、長坂住宅地区、馬場地区、岩海岸地区、平台地区、大ヶ窪地区、真鶴低地区
	第3水源	ふかいど 地下水 (深井戸)	塩素消毒のみ	
いわ 岩水源水系	岩1号水源	地下水 (深井戸)	塩素消毒のみ	真鶴低地区
	岩2号水源	地下水 (深井戸)	塩素消毒のみ	
たなごした 棚子下水源 水系	棚子下水源	地下水 (深井戸)	塩素消毒のみ	細山地区、棚子下地区、新島地区
ゆがわら 湯河原分水 水系	—	—	—	駅前地区、城北地区、真鶴高台地区、済度・宮の前地区、半島沿線地区、岬地区、琴ヶ浜地区



大猿山浄水池



江之浦水源池



棚子下水源



棚子下水源取水ポンプ



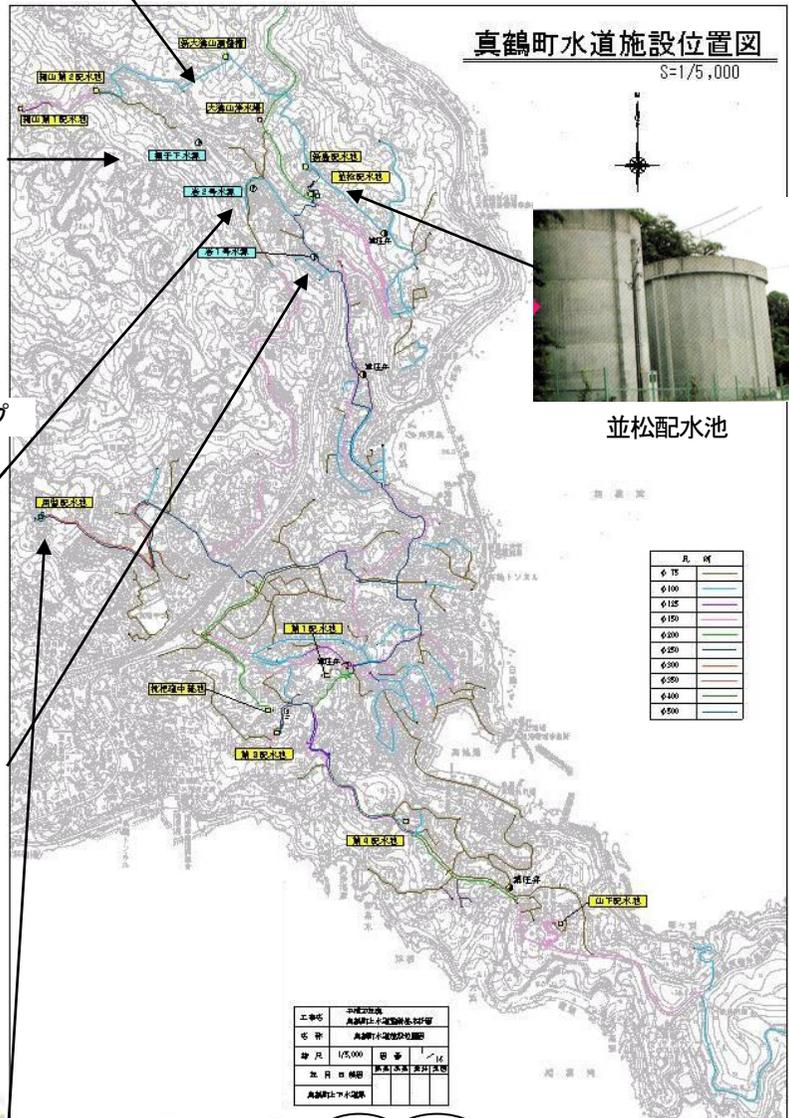
岩2号水源



岩1号水源



用留配水池



水を大切に使うために、わたしたちにできることは何だろう。

47……さわやか、すこやか、みんなの暮らし

### (3)水はどこへ

それぞれの家（台所、ふろ、せんたく、トイレ…。）からのよごれた水を、そのまま海に流すと、海がよごれてしまいます。

そこで真鶴町では、湯河原町と共同で下水の処理をしています。下水をきれいにするための施設は、「湯河原浄水センター」です。そこまで下水を運ぶための施設として、平成18(2006)年12月に真鶴

中継ポンプ場が完成しました。また、2015(平成 27)年 3 月には、

土地の低いところから中継場まで下水をおくるマンホールポンプ

も設置しました。年現在もなお、多くの町民が下水施設を利用できるように、工事を進めています。

#### 【真鶴町中継ポンプ場】



## 6

# 自然災害からみんなを守る

過去に発生した町の自然災害では、どのような被害があったのでしょうか。また、まちの人たちは、災害から身を守るためにどのような協力をしているのか、その取組を調べてみましょう。

## (1) 地震や台風にそなえて

### ① 関東大震災

大正12年9月1日、午前11時58分。とつぜん関東地方を中心に大きな地震がおきました。この地震によって発生した火災や津波で、たくさんの方がなくなったりけがをしたりしました。



ちご  
兒子神社

### 関東大震災のひがい

	旧 真鶴村	旧 岩 村
地震の時の人口	3650人	1515人
なくなった人	78人	41人
けがをした人	117人	88人
行方不明	5人	8人
合 計	200人	137人
地震の時の戸数	822戸	271戸
全部こわれた家	49戸	91戸
半分こわれた家	163戸	96戸
全部もえた家	467戸	—
うまった家	—	11戸
流された家	9戸	50戸
合 計	688戸	248戸

資料 震災調査表 (小田原警察署)

## 町の人のお話

わたしはその時、3さいの小さな子どもでしたが、カラー<sup>しゃしん</sup>写真を見るように、こわい思い出が今でもうかできます。

石がきがくずれて、かたむいた家のたたみの上をすべっていくダンス…

人がいなくなり、ガラスのとびちっている家の中……………

気がつくとなだれかのせなかにせおわれて、たすけだされていました。

それからわたしは、一本松の松の木に、二つちがいの兄としがみつき、ふるえながら<sup>め</sup>眼の下の火の海を見ていました。それは、地ごくのようでした。火の<sup>こ</sup>粉がとんできて、すぐそばの<sup>や</sup>わら<sup>ね</sup>屋根の<sup>こ</sup>小屋ももえました。

## ②大波とのたたかい

昭和24年8月31日、キティー<sup>たいふう</sup>台風が真鶴町をおそいました。朝から強い風や雨がふきあれ、大波<sup>みなと</sup>が港にあふれました。

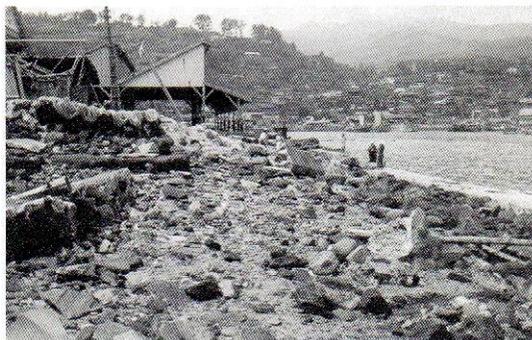
昼ごろになると、防波<sup>ぼうは</sup>ていはくずれてしまいました。さらに大波は船を海岸道路にまでうちあげ、家をおしつぶしました。

こわれた港や道路をなおすために町の人だけでなく、県や国のかかりの人など多くの人によって昭和29年3月、今の港ができあがりました。

### キティー台風によるひがい



大波に打ち上げられた船



ひがいをうけた真鶴<sup>こう</sup>港

**(2) 災害から人々を守るために**



**町防災訓練**

現在のものに変更



現在のものに変更

防災倉庫



広いきびなん場所



津波注意のお知らせ

現在のものに変更



**防さい無線**

**全国瞬時警報システム (Jアラート)**

大きなきぼの自然災害などについての情報を、防災無線を利用して直接瞬時に伝えるシステムです。緊急地震速報や津波警報などについて、自動で知らせるしくみになっているので、防災無線をよく聞いて、どのように避難したらよいか、しっかり判断できるように心がけましょう。

2011(平成 23)年 3 月 11 日の東日本大震災では、大きな津波が東北地方をおそいました。津波警報や注意報が出されたら、すぐに高い所へ避難しましょう。



# 7

## ふるさとをゆたかに

今までの学習で、真鶴町が漁業や石材業のまちとして知られていることを学習しました。真鶴町の<sup>でんとう</sup>伝統や文化、<sup>せんじん</sup>先人の働きについて調べてみましょう。

### (1) まちに残る年中行事 (※第2章34ページより移設)

● 真鶴にはどんな祭りがあるのだろう。

【貴船祭り】<sup>きふね</sup>国指定重要無形民俗文化財



## きぶね 貴船祭り

(日本三大船祭りの一つ：7月27日・28日)

17世紀中ごろに、現在の貴船祭りの原型が生まれたといわれています。  
昔から貴船祭りは「恩返し祭り」と言い伝えられ、海運、石材業における安全、漁業の大漁祈願とともに、日常の安らかで平和な毎日への感謝の心をこめて、勇壮・華麗にくり広げられます。

### 【7月27日】宵祭り

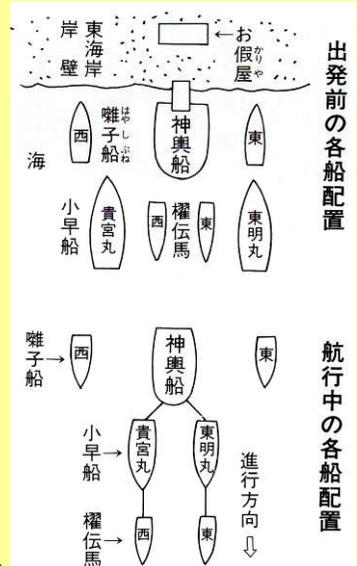
小早船が海の中に入ることから始まり、權伝馬が小早船・神輿船を引っ張り、囃子船とともに貴船神社がある宮の前海岸へ、神輿をむかえに向かいます。

神社では例大祭が行われ、鹿島踊りが奉納された後、神輿が神輿船に乗り、各船はお仮殿前の海岸に向かいます。上陸後、神輿はお仮殿に入ります。

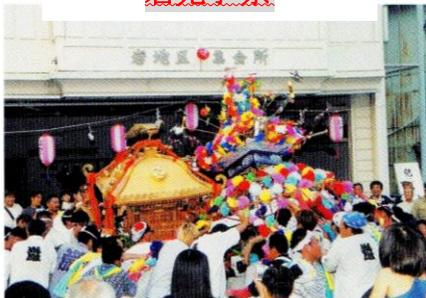
### 【7月28日】本祭り

お仮殿の前で発興が行われ、鹿島踊り、花山車が奉納され、花山車、鹿島連、神輿、はやしが町内を回ります。

町内をめぐった後、神輿は一度、お仮殿に入り、鹿島踊りが奉納されます。その後、神輿船に乗り、權伝馬・小早船・囃子船とともに宮の前海岸へ向かいます。神輿は神社にもどり、鹿島踊りの奉納でこの祭りは終わります。



## いわちごまつり 岩兒子祭



岩地区のお祭です。見どころは、花山車とみこしがはげしくぶつかりあうところです。

## どうそじんさい 道祖神祭



無病息災をねがって、山車が子どもや大人たちの手でひかれ、町内をまわります。

●真鶴にはどんな行事があるのだろう。

月日	行事名
1月 1日	元旦・初詣・初荷
~5日	責船の歳旦祭 海運業・漁師の船祝い 船主の年始 石材業の山祝い
7日	七草がゆ 道祖神祭準備
11日	鏡開き・お蔵開き
14日	ドンドン焼き(岩・大ヶ尻)
第2月曜日	成人の日
15日	身の賃決め 小正月・十五日がゆ
16日	出初式
17日	石材業者の山の神講 農家の山の神講
20日	二十日正月・えびす講
23日	町内寺院の初地蔵
28日	道了尊初詣
2月3(4)日	節分・豆まき
初旬	初午・針供養
3月 3日	桃の節句・ひな祭り
下旬	春の彼岸 石工先祖供養
24日	自泉院水子地蔵
4月 1日	磯開き(昔は3月1日)
8日	花まつり
17日	内袋観音例大祭 石材業者の山の神講 日和山生飯大師
5月 5日	端午の節句 岩竜宮神社の祭り

月日	行事名
6月 1日	岩浅間講
26日	風外堂だるま大師祭
7月 7日	七夕祭 石場・岩向方のお天王さん (へらへらだんご)
第3土・日	兒子神社の例祭
27日、28日	責船神社の例大祭
8月 初旬	岩頼朝船出海岸夏祭り
13~16日	孟蘭盆会
23日	瀧門寺地藏尊
26日	日和山 二十六夜さん
9月 1日	防災の日
下旬	秋分・秋の彼岸
23日	岩海岸二十三夜待ち
28日	道了尊大祭
10月 13日	船玉竜神社例祭 (竜宮さん昔は5月3日)
	十三夜・お月見
17日	石材業者山の神講
下旬	お十夜
11月 15日	七五三の祝い
20日	えびす講(商家)
12月 1日	川浸り餅
8日	目一つ小僧
14日	真鶴大通り歳の市
下旬	冬至行事
28日	門松・餅つき
31日	大晦日 責船・石船業者のおこもり

(真鶴の文化財・第5集年中行事より)

はってん  
(2) 地域の発展に尽くした人々

● 真鶴町の発展に尽くした先人は、どのような努力をして、どのような願いをもっていたのだろう。



尻掛浦

きしゅうおおさき わかやま しもつちょう よじ  
紀州大崎（和歌山県下津町）の与次  
べえ  
兵衛がぼらあみを始めたところです。  
りょうし  
海岸に小屋を作り、数十人の漁師さん  
はたら  
が働いていたといわれています。

かくえい えどじょう きず  
石材業を始めた土屋格衛や、江戸城を築  
くために石をほり出す仕事にあたった黒  
ながまさ けらい  
田長政の家来七人のはたらきをたたえて  
たてられました。



石工先祖碑



黒田長政供養塔

江戸城をつくるために真鶴から  
たくさんの石をきりだす仕事を  
した黒田長政の供養塔くようとうです。

① <sup>ぎよぎょう</sup>「漁業のまち」ができるまで

【網で、まぐろ、ぶり、えび、ほらをとる】



<sup>さがみわん</sup>相模湾の中でも、特に魚の種類が多いとされる<sup>しゆるい</sup>真鶴の海では、昔から、漁業がさかんでした。はじめのころは、<sup>つりりょう</sup>釣漁や<sup>せんすいぎょほう</sup>潜水漁法が中心でした。

江戸時代になると、<sup>きい</sup>紀伊（<sup>わかやまけん</sup>和歌山県）の<sup>たひろよじべえ</sup>「田廣与次兵衛」という人が「<sup>ほら</sup>鰯あみ」（1637年）を、また、<sup>いずみ</sup>和泉（<sup>おおさかふ</sup>大阪府）の「<sup>いけだやそべえ</sup>池田弥惣兵衛」という人が「<sup>たいなが</sup>鯛長なわ」（1643年）を<sup>どうにゆう</sup>導入し、魚をたくさんとることが進められていきました。

今から~~180~~<sup>ほど</sup>年程前、「<sup>ねござい</sup>根拵あみ」が開発され、海岸の近くの海に、「<sup>ていち</sup>定置あみ」をはって魚をとるようになりました。

200

「根拵あみ」は、石川県の「<sup>とうしち</sup>藤七」という人が伊豆山<sup>いずさん</sup>に来て、海にあみをはったところ、ひじょうにたくさんの魚がとれたということ  
を聞き、真鶴村<sup>なぬし</sup>の名主「<sup>ごみだいえもん</sup>五味台右衛門」という人が、いろいろくふうし、<sup>かいほつ</sup>開発したということです。

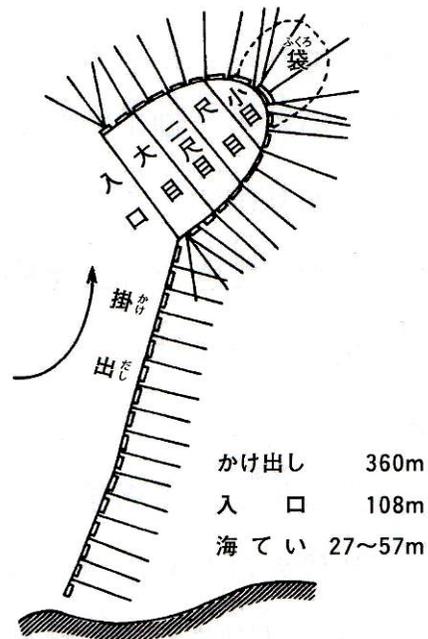
とれた魚も、船で江戸<sup>えど</sup>（東京）や小田原に運んで売りました。そのため、真鶴村は、<sup>ぎょそん</sup>漁村としていっそう<sup>はってん</sup>発展し、村の人たちの生活もゆたかになりました。

その後、「根拵あみ」は、いろいろな村につぎつぎにつたわり、<sup>めいじ</sup>明治のはじめまではられていました。この「根拵あみ」をもとにして<sup>けんきゆう</sup>研究され、今の「<sup>ていち</sup>定置あみ」ができあがりました。そして、「ぶり」が昭和30年ころまでたくさんとれました。

### 【根拵あみ】

しばらく、海の中にあみをはり立てたままにしておき、魚のたいぐんが入ったらふくろだけをあげればよいというしくみになっています。

<sup>かいゆう</sup>回遊してきた大きい魚や小さい魚まで根こそぎとってしまうところから、この名がつけられたといわれています。



② <sup>せきざいぎょう</sup>「石材業のまち」ができるまで

<sup>えどじょう</sup> <sup>いしがき</sup>【江戸城の石垣につかう小松石の切り出しや <sup>うんぱん</sup>運搬】



真鶴半島は、むかしからよい石がとれるところとして知られています。それは、<sup>はこね かざん</sup>箱根火山から流れ出た溶岩がかたまつた<sup>あんざんがん</sup>安山岩という美しい石や、<sup>さいく</sup>細工のしやすい石がほりだされていたからです。

石を切り出すしごとをはじめたのは、むかし、都の戦いをのがれて岩にやってきた「<sup>つち や かくえい</sup>土屋格衛」という人だといわれています。伊豆<sup>いず</sup>石、相州石とよばれ、町なみ、お寺、<sup>じんじゃ</sup>神社などを作る時や<sup>はかいし</sup>墓石にも使われました。

石の産地として真鶴の名前が全国に知られるようになったのは、<sup>えどじだい</sup>江戸時代のはじめ江戸城の石垣をつくるために、<sup>とくがわごさんけ</sup>徳川御三家をはじめ、<sup>ちくぜんくろだはん</sup>筑前黒田藩や<sup>ひぜんなべしまはん</sup>肥前鍋島藩が、たくさんの石を切り出すようにな

ってからのことです。伊豆半島にはよい石がたくさんありましたが、とくに真鶴は江戸に近く、港にめぐまれ、船で運ぶのにべんりだったからです。

港までは、大きな石は牛車で、小さな石は「しゅら」を使って山ごえし、運ばれたといます。今とちがってきかいや自動車がない時代なので、とてもたいへんな仕事でした。

それまでしずかな漁村だった真鶴は、このころから、石船がたくさん行き来し、石丁場（石切場）では石を切り出す人たちがいそがしく動き回るにぎやかなまちとなりました。この石は、「伊豆堅石」ともよばれていますが、真鶴でとれる石のばあいは、岩の小松山からたくさんとれるところから「小松石」とよばれるようになりました。また、幕末には、江戸品川沖に台場（砲台）をつくるために、たくさんの石が切り出されて使われました。

その後は、横浜港や横須賀港の工事、東京の市街電車のせんろのほそう用の敷石などに使うため、たくさんの石を真鶴から運びました。その時、この仕事の中心となっていたのは、岩村に生まれた土屋商店の「土屋大次郎」という人です。

現在の「真鶴町民俗資料館」は、この土屋家の住まいだったところをおかりしているもので、そこの石材コーナーや役場の近くの「石工先祖碑」には、真鶴の石材業のことが、くわしくしょうかいされています。

## 8

## 真鶴町のまちづくり

（「総合的な学習の時間」や6年・社会科の「政治の働きについての学習」のときに参考にしましょう。）

真鶴町は、<sup>けいかん</sup>景観のよいまちとして知られています。未来でもこのまちが美しくくらしやすいまちであるための目標や取組を調べてみましょう。

真鶴町では、「**令和3年**になったとき、こんなまちでいてほしい」というみんなのまちづくりのねがいを、次のようにまとめました。

<sup>しんらい</sup>信頼で<sup>きず</sup>築く<sup>みらい</sup>未来、<sup>かがや</sup>美しく輝く町へ

- “<sup>え</sup>ほほ<sup>ささ</sup>笑みで<sup>ちいき</sup>支え<sup>じつげん</sup>合い、<sup>ちいき</sup>分かち<sup>じつげん</sup>合う”<sup>ちいき</sup>地域社会を実現する -

<sup>あす</sup>未来を<sup>きず</sup>築く<sup>そごう</sup>ビジョン「第4次真鶴町総合計画」より

このねがいを実現させるために、「<sup>えがお</sup>笑顔（<sup>へい</sup>平和）」「<sup>かんきょう</sup>美の町（<sup>かんきょう</sup>環境）」「<sup>くらし</sup>くらし（<sup>くらし</sup>生活）」「<sup>まなぶ</sup>学び（<sup>まなぶ</sup>教育）」「<sup>しんけん</sup>思いやり（<sup>じんけん</sup>人権）」を<sup>いしき</sup>意識しながら、次の5つのまちづくりを進めています。

【<sup>つく</sup>創 <sup>る</sup>】<sup>ゆた</sup>美しく<sup>ふうけい</sup>豊かな風景を守り育てるまちづくり

【<sup>ささ</sup>支える】みんなで<sup>ささ</sup>支え合い、<sup>ちいき</sup>分かち合うまちづくり

【<sup>ち</sup>地の仕事】“<sup>ち</sup>地の仕事”を生かしたまちづくり

【<sup>まなぶ</sup>学 <sup>び</sup>】一人一人を大切に<sup>まなぶ</sup>した教育により、<sup>つづ</sup>学び<sup>とも</sup>続け共に生きる人づくり、<sup>ゆた</sup>心豊かな生活と文化のあふれるまちづくり

【<sup>じ</sup>自 <sup>ち</sup>治】“<sup>じりつ</sup>自立した<sup>せいふ</sup>地方政府”を目指して、<sup>ちいき</sup>地域社会づくり、<sup>ちいき</sup>地域自治、<sup>こういきれんけい</sup>広域連携を進めるまちづくり

●そんな「まち」を目指してがんばっていることを、身のまわりから探してみましょう。

**【社会保障】みんなで支え合うまちづくり**



ふくし  
社会福祉大会



い けんこうたいそう  
まなづる生き活き健康体操



たいけん  
ふれあい体験セミナー



けいろうかい  
敬老会



親子教室



ふれあいスポーツ大会

**【自然災害への備えや安全な環境】 みんなで助け合うまちづくり**

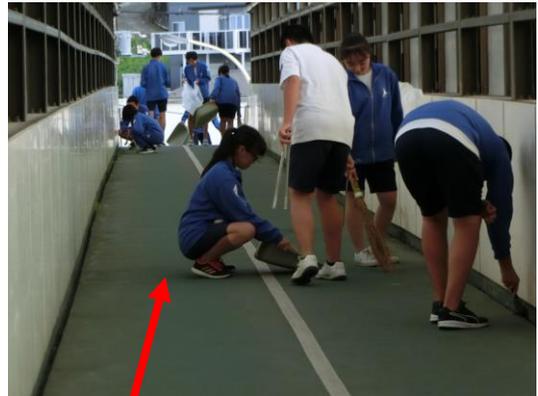


今年度の写真に変更

町防災訓練



ビーチクリーンアップ



中学生 駅前清掃

新しい項目を追加

**【地域の開発や活性化】 みんなで考え創造するまちづくり**



町政報告会



かんこう さくせい  
真鶴観光パンフレットの作成



えきでんきょうそう  
真鶴半島駅伝競走大会



ちょうみん  
町民運動会



きょうどうさんかくこうえんかい  
男女共同参画講演会



中学生による「真鶴への提案」



マナ真鶴～ハワイアン・のタベ～



こうかいこうざ  
公開講座  
いそ  
磯の  
かんさつ  
観察会



とうげい  
子ども陶芸教室



町民音楽祭

しょうひょうとうろく  
○商標登録

・水産業

真鶴町で美味しい魚がたくさんとれる理由として考えられてい

るのが、魚付き保安林「お林」に降っ  
た雨が、森で生まれた栄養を豊富に含  
んだ湧き水となって海に流れ込み、周  
辺に魚が居ついたのではないかとい  
うことです。



また、真鶴町の周りには、いろいろな種類の生き物（魚や貝、海藻など）が生活しています。

真鶴町でとれる魚が美味しいことをPRするために「お林・どん  
深の海の恵み 真鶴」という商標ロゴを作成し、商標登録を  
しました。

(平成30年3月9日 登録第6024953号)

### ・石材業

真鶴町でとれる「小松石」をさらに  
有名にするために、真鶴町でとれた本  
小松石のを使った製品に使用できる  
ように「真鶴 本小松石」として商標  
登録をしました。

(平成30年5月25日 登録6045559号)



## 9 真鶴町のうつりかわり

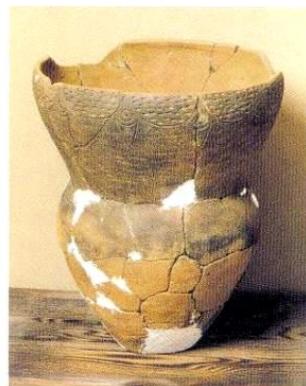
(「総合的な学習の時間」や6年・社会科の歴史学習のときに参考にしましょう。)

真鶴町には、古い建物や記念碑がたくさん残されています。昔を伝えるこれらの者を見つけましょう。

### (1) 昔を伝えるもの

#### ① 釈迦堂遺跡

「縄文時代」に使われた土器や石器などが出ることで知られています。



釈迦堂出土縄文土器

#### ② 貴船神社



この神社は、889(寛平元)年に建てられたといわれ、江戸時代には貴宮大明神とよばれていました。

#### ③ 荒井城址

城口、城の本などの地名があることから、城あとや館あとなどといわれています。荒井実継という人のお城ではないかともいわれていますが、まだはっきり分かっていません。



しとどのいわや  
④ 鴟窟

1180 (治承4) 年、源頼朝が石橋山  
の戦いにやぶれてから、土肥実平などと  
ともに、この地にあった窟にかくれてい  
たといわれています。追ってきた武士があ  
やしんで中をのぞいたとき、窟の中から



「鴟」という鳥がまい出たので、中にはだれもいないとして立ち去  
ったことから、この名がついたといわれています。

うたいざか  
⑤ 謡坂



石橋山の戦いにやぶれた源頼朝  
など七人が箱根山から無事のがれ、  
そのうちの一人土肥実平が無事を  
喜んでうたいおどったといわれて  
いるところです。

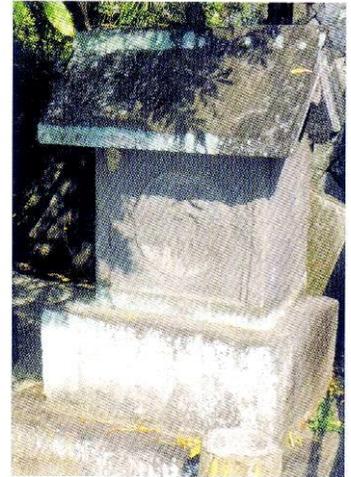
ふなで はま  
⑥ 源頼朝船出の浜

戦いにやぶれた源頼朝が、船で  
安房 (千葉県) に船出したのが  
この岩海岸だといわれています。



⑦ <sup>ふうがい</sup> 風外ゆかりの <sup>てんじんぐう</sup> 天神宮

1627年、風外というおぼうさんがこのあたりに住み着きました。風外さんは、だるまの絵をかくことがとても上手で、子どもと遊ぶのも大好きでした。天神様をまつり、石のほこらをつくりました。



<sup>ふうがい</sup> 風外が <sup>てんじんぐう</sup> つくった天神宮



⑧ <sup>りゅうもんじ</sup> 瀧門寺の <sup>ほうきょういんとう</sup> 宝篋印塔

真鶴でとれる小松石としてつくった石塔としては、関東で一番大きいといわれています。1767（明和4）年、瀧門寺のおしょうさんが、人々の <sup>しあわ</sup> 幸せをねがってつくりました。

⑨ <sup>ばくまつ</sup> 幕末の <sup>ほうだい</sup> 砲台

<sup>えど</sup> 江戸時代の終わりころ、江戸幕府は <sup>ばくふ</sup> 外国の船を <sup>お</sup> 追いはらうために、海の守りに力を入れました。小田原藩でも <sup>おだわらはん</sup> 大砲を置くために、たて約30m、横約36mの <sup>だいば</sup> 台場をつくりました。



## (2) 真鶴町のうつりかわり

明治以降 ●真鶴 ●日本

西暦	年号	おもなできごと
1868	明治元	● 江戸を東京とあらためた。
1871	4	● 小田原県(7月)がおかれたが、足柄県(11月)とかわった。 ● 県庁が小田原におかれた。
1873	6	● 真鶴学校が真鶴村と岩村の共同でつくり、常泉寺を校舎にしてはじまった。(先生4名、児童8名)
1874	7	● 吉浜ゆうびん局が、岩村から西の9つの村のはいたつをはじめた。
1876	9	● 足柄県がはい止され、神奈川県にへん入された。
1879	12	● 第1回神奈川県会議員選挙が行われた。
1881	14	● 小田原-熱海間に県道ができた。 ● 岩村の如来寺に真鶴学校の分校ができた。
1882	15	● 真鶴学校を今の所にたてた。(6教室)
1884	17	● 真鶴村・岩村・福浦村の組合役場ができた。
1887	20	● 汽船が国府津-小田原-真鶴-熱海間の運航をはじめた。
1890	23	● 大日本帝国憲法が公布された。 ● 東海道線が全通した。 ● 真鶴学校よりわかれ、尋常岩小学校ができた。



大正12年ころまであった  
瀧門寺の美しい滝  
(関東大震災前)

1894	明治27	● 日清戦争が始まった。 ● 岩村で大火があった。
1895	28	● 真鶴港の開港式がおこなわれた。
1896	29	● 小田原-熱海間に人車鉄道ができた。
1897	30	● 長昌院内に尋常岩小学校の新校舎をたてた。(2教室)
1902	35	● 真鶴ゆうびん局ができた。
1904	37	● 日露戦争が始まった。
1906	39	● 人車鉄道が軽便鉄道となった。
1907	40	● 汽船が国府津-伊東間の運航をはじめた。1日2回(寄港地は国府津-小田原-真鶴-熱海-網代-伊東)
1910	43	● 韓国併合。
1916	大正5	● 熱海線の工事がはじまった。
1919	8	● 真鶴で大火があった。
1920	9	● 真鶴に電話がひかれた。 ● 真鶴駅より湯河原温泉場まで乗合自動車が出た。(50銭)
1922	11	● 真鶴-湯河原温泉場間に乗合馬車が1日6往復した。また、小型自動車7台が温泉客をはこんだ。 ● 熱海線が真鶴まで開通した。
1923	12	● 関東大震災がおこった。 ● 駅-港をむすぶ道路をつくった。
1924	13	● 岩尋常小学校を今の所にたてた。
1925	14	● 汽船がはい止された。 ● 熱海線(国府津-熱海)が全通した。



人車鉄道から軽便鉄道へ

1925	大正14	● ラジオ放送がはじまった。
1926	15	● 真鶴小学校に電話がひかれた。
1927	昭和2	● 真鶴村が真鶴町になった。
1928	3	● 熱海線の電化工事が終わった。
1929	4	● 真鶴小学校に水道がひかれた。
1934	9	● 町営魚市場ができた。
		● 丹那トンネルができた。
		● 熱海線が東海道本線となった。
		● 真鶴港完成、房州方面の魚は真鶴港に陸あげされて、関西方面におくられるようになった。
1937	12	● 日中戦争が始まった。
		● 岩小学校が全焼した。新校舎完成。
1941	16	● 小学校を国民学校というようになった。
		● 太平洋せんそうがはじまった。
1944	19	● 岩国民学校に軍隊がとまった。
1945	20	● 真鶴国民学校に軍隊がとまった。
		● 二部じゅぎょうをおこなった。
		● 太平洋せんそうがおわった。
1946	21	● 日本国憲法が公布された。
1947	22	● 六三制の教育がはじまった。
		● 国民学校が小学校と言われるようになった。
		● 真鶴中学校ができた。
1948	23	● 町営しんりょう所ができた。
1947	24	● キティー台風で港・道路・家などがこわされた。
1951	26	● 火そう場ができた。

しやうわしよき まねづるこう  
昭和初期の真鶴港

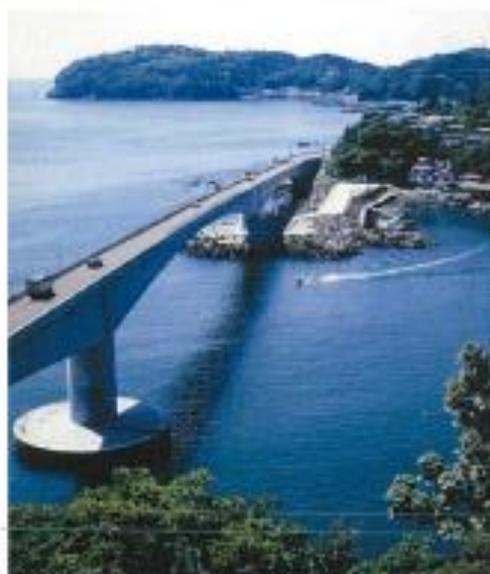


1951	昭和26	● サンフランシスコで講和条約を結んだ。 ● 日米安全保障条約が結ばれた。
1953	28	● テレビ放送がはじまった。
1954	29	● 真鶴岬が県立公園に指定された。 ● 真鶴港が復旧した。
1956	31	● 日本が国際連合のなかまになった。 ● 真鶴町と岩村がいっしょになり新しい真鶴町ができた。 (人口9,084人)
1957	32	● 真鶴町と岩村の消防団がいっしょになった。 ● 真鶴の宿仲で大火があった。
1959	34	● 真鶴有料道路が開通した。 ● 岬を一周するバスの運転がはじまった。
1961	36	● ごみしょうきゃく場ができた。 ● 岩地区へ江の浦から水道がひかれ、通水がはじまった。
1962	37	● 岩小学校で給食がはじまった。
1963	38	● 真鶴小学校で給食がはじまった。
1964	39	● 東京オリンピックが開かれた。 ● 東海道新幹線が開通した。
1965	40	● 真鶴電話局ができた。 ● 岩小学校の講堂ができた。
1967	42	● 岩海水浴場がひらかれた。
1969	44	● 真鶴駅構内に参道橋ができた。
1970	45	● 大阪で万国博覧会が開かれた。

真鶴 岬の展望台



1970	昭和46	● 日本が人工衛星を打ち上げた。 ● 真鶴有料道路バイパス工事が始まった。
1971	46	● 町で大火があった。 ● 新しい真鶴町役場ができた。
1972	47	● 札幌オリンピックが開かれた。 ● 沖縄が返還された。
1974	49	● 真鶴小学校の新校舎ができた。
1976	51	● 真鶴小学校屋内運動場ができた。 ● 真鶴小学校が開校百周年をむかえた。 ● 真鶴小学校にプールができた。
1978	53	● 日中平和友好条約が結ばれた。 ● ひなづる幼稚園ができた。
1979	54	● 岩小学校の新校舎ができた。
1980	55	● 真鶴中学校の新校舎ができた。
1982	57	● 岩大橋（新道）ができた。
1983	58	● 小田原保健所真鶴支所ができた。
1984	59	● 町民センターができた。
1986	61	● 町民俗資料館（旧土屋邸）ができた。
1987	62	● 荒井城址公園ができた。

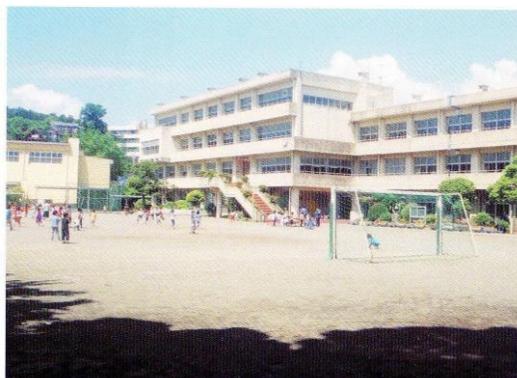


いわおほし  
岩大橋

1989	平成元	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町立中川一政美術館<small>なかがわかずまさ びじゅつかん</small>ができた。</li> <li>● 岩小学校屋内運動場<small>いわしょうがく いんえんうんどうじょう</small>ができた。</li> </ul>
1920	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 岩小学校が開校百周年をむかえた。</li> <li>● 真鶴中学校<small>まがねちゅうがっこう</small>にパソコンが設置された。</li> </ul>
1992	4	● 真鶴小学校 <small>まがねしょうがく</small> の校舎を改修した。
1993	5	● 岩小学校にパソコンが設置された。
1994	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティ真鶴<small>まがね</small>ができた。</li> <li>● 真鶴町まちづくり条例<small>まちづくりじょうれい</small>ができた。</li> <li>● 真鶴小学校にパソコンが設置された。</li> </ul>
1995	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 阪神・淡路大震災<small>はんしんたんろだいしんさい</small>が起きた。</li> <li>● 真鶴魚座<small>まがねいざ</small>ができた。</li> <li>● 町立体育館<small>まちりつたいいくかん</small>ができた。</li> </ul>
1997	9	● 真鶴小学校屋内運動場 <small>まがねしょうがく いんえんうんどうじょう</small> 全面改修。
1998	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長野オリンピック<small>ながのオリンピック</small>が開かれた。</li> <li>● 第53回国民体育大会<small>だいごじゅうさんかいこくみんたいいくたいかい</small>が神奈川県で開かれ、ウエイトリフティング<small>うえいとりふていんぐ</small>競技が真鶴町で行われた。</li> </ul>
2001	13	● 3校のパソコンがノート型になった。
2004	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報センター真鶴<small>まがね</small>ができた。</li> <li>● ケープ真鶴<small>まがね</small>ができた。</li> <li>● 真鶴小学校屋外運動場<small>まがねしょうがく いんげんうんどうじょう</small>全面改修された。</li> </ul>
2005	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まなづる小学校<small>まなづるしょうがく</small>ができた。</li> </ul> <p>(真鶴小学校と岩小学校がいっしょになる)</p>



旧岩小学校



旧真鶴小学校

2005	平成17	● お林展望公園ができた。
2006	18	● 俺の学校ができた。 ● 真鶴町教育支援センターができた。
2008	20	● 真鶴道路（旧道）が無料になった。
2010	22	● 真鶴町立遠藤貝類博物館ができた。
2011	23	● 東日本大震災が起きた。

2012 平成 24 ● お林展望公園に「パークゴルフ場」ができた。

2014 平成 26 ● まなづる小学校開校 10 年を迎え、記念式典が開かれた。

● 真鶴産業活性化センター（まなづる里海 BASE）が設置された。

2015 平成 27 ● 「真鶴なぶら市」（毎月末日曜開催）が始まった。

2016 平成 28 ● コミュニティバスの有料化と、新ルートでの運行が始まった。

2017 平成 29 ● アートイベント「真鶴まちな一れ」が始まった。

2019 令和元 ● 「真鶴町・石の彫刻祭」を開催した。

2020 令和 2 ● 東京オリンピックが開催される。